



高知県理学療法士協会ニュース

No.176 2022・12・20 発行 公益社団法人 高知県理学療法士協会

「皆の前ではめないで下さい」

会長 宮本 謙三

一見素直で協調性があるが、実は競争や挑戦が嫌いで受け身な学生たち……。先日、金沢大学の先生の調査が高知新聞に掲載されていた。最近の若者のリスク回避志向を危惧した内容で、横並び意識が強く人前で褒められることも「浮いてしまう」と嫌がる傾向があるようだ。この傾向は「公平な配分」を尋ねた質問にも表れている。「平等」「必要性」「実績」「努力」の選択枝のうち最も公正な配分方法と思うのはどれかを問うた。結果は約半数が「平等」と答え、「努力」は25%。昨今の若者は努力や実績に基づく配分よりも「皆と同じだけ」の配分が公正だと感じている。意思表示は「皆と同じ」、自分の意見は「特にありません」。そんな若者、そんな大人が多くなってきたのではないだろうか。（「先生、どうか皆の前ではめないで下さい」金間大介、東洋経済新報社2022）

多様性が強調されだした今日と矛盾するようにも思えるが、個性の発揮に「和を乱さない範囲で……」という暗黙の前提がある限り、周囲の空気や顔色を見た付度ばかりが身に付いてしまい、独創的な発想が生まれてくることはない。そして、目立たぬ存在を「良い子」とした教育評価は、従順な人格形成を推し進め、自らに関係ない事柄には貝のように口を噤んでしまう。幼稚園からの規律正しい生活や、学校生活の制服着用などをみていると、日本社会に根付いた「調和の美德」、性格形成プログラムの結果のようにも感じられる。

同様に、理学療法士の世界も「和を乱さない範囲で……」が浸透してきたように思う。一昔前に比べ職能団体の総会や学会でも調和的な意見表明が多くなった。意見は闘わせるのではなく、すり合わせるものだと考えているのだろう。随分と大人になったものだ。和を乱さない論議を否定はしないが、議論を闘わせても乱れない雰囲気を作り出さねば、いつまでたっても進歩がみられないような気がする。治療場面も同様に、自らの治療内容に同僚の意見を求め、厳しく発展的に議論することで治療水準は高まるはずである。是非、専門職としてのプライドをかけて、理学療法士だからこそできる治療を、自分だからこそできる治療を示してもらいたい。他者の建設的批判をイジメなどと言ってはならない。目立たぬように皆を横目で見ながら、同じような治療を行っているようでは理学療法士になった甲斐がない。是非、独創的な治療を同僚の前に提示し、議論を通して卓越した考えを褒めてもらおう……。何も浮いてしまうことではないし、恥しいことでもない。本物の理学療法士の証である。

No. 176

◇ 皆の前ではめないで下さい ……………	1	◇ 高知県知事より表彰されました ……………	9
◇ リレー紹介 ……………	2	◇ 創立50周年記念式典にて表彰されました ……	10
◇ 新生涯学習制度のコーナー ……………	3	◇ 日本理学療法士協会のアプリ公開……………	10
◇ リレー・フォー・ライフ・ジャパン2022 高知 ……	5	◇ 賛助会員の皆様 ……………	11
◇ 施設紹介 ……………	6	◇ 第36回高知県理学療法学会のご案内 ……………	12
◇ 令和4年度 学会・研修会予定表 ……………	8	◇ 編集後記 ……………	12
◇ 知読万恵 ……………	8		

会員紹介

南国中央病院 宮地 悠平

初めまして。職場の後輩である伊賀瀬愛さんからバトンを受け取りました南国中央病院の宮地悠平と申します。私は回復期リハビリテーション病棟、デイケアでの勤務後、現在は当院訪問リハビリテーション事業所で勤務しています。

日々の業務の中で利用者様との関わり方や制度のことなど難しいことも多々ありますが、退院後から生活までの一連の流れをみることができ、やりがいを感じています。また、今年介護支援専門員の資格を取得でき、利用者様に少しでも自分の知識や経験を活用し生活の力になればと考えています。

私の趣味はフットサルです。コロナ禍となり中止となることも増えてきましたが、徐々に再開できるようになってきました。フットサルは、新たな出会いや汗を流してリフレッシュできる良い機会となっています。

次は専門学校の同期であり、同僚の甫木啓徳さんにバトンを回したいと思います。よろしくお願いします。



細木病院 門田早侑梨

皆さんこんにちは。自分の結婚式でエスコート役をお願いしたほど尊敬してやまない恩師である白菊園病院の明神路さんよりバトンを受け取りました。細木病院に勤務している10年目の理学療法士の門田早侑梨です。現在、5月に2度目の出産を終えて育休をいただいております。そんな中、最近ふと気づいたことがあるのでここに書きたいと思います。

2歳の息子の好きな食べ物は唐揚げとプリンと白米とにゅーにゅー(牛乳)で、ぽっちゃり体形の優しい子です。そんな息子ですが、お薬は大の苦手で、お薬を見ただけで顔を背けて逃げ出してしまうほどでした。そこで、主人と色々な方法を考え試してみることにしました。ざっと言うと、好きなジュースに混ぜる、アイス・プリンに混ぜる、プロテインシェイカーで大人と同じように飲む、などなどです。しかし、その日の気分も相まってなかなか定着はしませんでした。しかし、私はそれでも1ミリも諦めませんでした。本やテレビ、インターネットでお薬の飲ませ方を片っ端から勉強し、保育園の先生には少し引かれるほど聞きまくり、夜な夜な目をこすりながらお薬の飲ませ方を考える日々…。やっと息子にあったお薬の飲ませ方にたどり着きました！ちなみにその方法なのですが…、ここでは説明しにくいので知りたい方はぜひ私まで直接ご連絡をください。

主人と色々なアプローチを考える中で、患者さんのアプローチを考える事と子育ては少し似ているということに気づきました。自分の子どもも患者さんも、こうやって時間をかけてアプローチしていくからこそ良い結果が出た時にとても嬉しい気持ちになり、同時に信頼関係も築くことができるんだろうなと思います。

まだまだ母3年目の新人ですがこれからもたくさん学んで経験していきたいと思いますので先輩方、ご指導のほどよろしくお願いいたします。もちろん復帰後は仕事も頑張ります！

次は細木病院No.1のイケメンである島津平くんにバトンを渡したいと思います。島津くん、よろしくお願いします。



※バトンを引き受けた会員の皆様は、令和5年1月15日までにkouhou@kopta.netまで原稿をお送りください。

新生涯学習制度のコーナー

当院での院内研修の開催状況について

近森リハビリテーション病院 江口 智博

新生涯学習制度が始まり、当法人では院内研修を登録理学療法士更新のためのセミナーとして申請し生涯学習の一助となるように企画・運営しています。効率よくポイントを取得していく場ではなく、スタッフ教育の場を提供することで病院全体のスキルアップができることを主眼として企画しています。

まず院内で登録理学療法士更新のためのセミナーを開催することで感じたメリットとしては、ポイント取得が可能のため、沢山の聴講者が参加しやすくなり、病院全体のスキルアップに繋がると感じました。デメリットと感じる部分はないのですが、研修会を継続していくための障害として感じたことは講師の確保をどうするかということです。「ポイントのつく公式な研修会の講師を自分が実施して良いのか？」というスタッフの遠慮や自信のなさもあり講師になってくれるスタッフを探すことに難渋することもありました。残念ながら、この研修会の講師にはポイントがつかないため講師へ還元するための院内独自の仕組みを検討するのも良いかと思います。

ここからは具体的にどの様にセミナー申請するに至ったかを説明します。まずは法人内で研修会を運営する組織を作り、研修会開催、セミナー申請に対してのマニュアル作成から開始しました。当院では年間6回の研修会開催を企画する方針としています。セミナーの内容に関しては理学療法士が関わることの多い「脳血管疾患」「呼吸器疾患」「循環疾患」「整形外科疾患」の領域を選択しました。セミナー申請は、JPTAのアプリやホームページより簡単に申請することができます。申請の方法も協会のマニュアルに画像つきで掲載されているので参照していただければと思います。注意点としては研修会開催日の2週間前までに申請を行う必要があることです。講師に関しては理学療法士のみならず、他職種の院内研修会でもセミナー申請が可能です。研修会の開催時間に関しては業務後に実施することと、同じカリキュラムコードでポイントの二重取りができないこと（同じカリキュラムコードの研修会に2回参加した場合、最初に参加した研修会のポイントが適応される。つまり最初の研修会が0.5ポイント、2回目の研修会が1ポイントの場合、最初に受けた研修会の0.5ポイントが適応される。）を考慮し1時間（1ポイント）としました。研修会の開催方法はzoomを利用したオンライン形式としており、休日のスタッフも自宅から参加できるようにしています。

まだ数回しか研修会を開催できてはいませんが、スタッフの反応としては「院内でポイント取得が行えるようになって良かった」との声も聞かれています。今後も継続していくことでスタッフ教育の機会を作り、病院全体のスキルアップに繋げていけるようにしていこうと考えています。この文面がこれから院内研修を実施しようと考えられている方々の参考になれば幸いです。

後期研修 E：領域別研修（事例）についてのQ&A

Q：2022年度は新人発表ってあるんですか？

A：新生涯学習制度に変更となったため、症例報告（新人発表）はカリキュラムに含まれていません。代わりに前期研修カリキュラムでは「症例報告・発表の仕方」が組み込まれており、後期研修の「E 領域別研修（事例）」で症例検討会に参加し、発表・聴講していただくことになっています。

Q：後期研修の「E 領域別研修（事例）」における症例検討会は発表が必須ですか。もし発表するならどこで発表すればよろしいですか。

A：高知県理学療法士協会では、1度は症例検討会で発表することを推奨しています。発表の場は高知県協会が開催する「高理協主催症例検討会」もしくは各所属施設で開催する「高理協承認症例検討会」となります。

Q：所属施設内で症例検討をするためにはどうしたらいいですか。

A：所属施設の登録理学療法士の先輩に相談しましょう。登録理学療法士取得者が座長となりマイページから申請、高知県協会の承認が得たのちに症例検討会を実施すればポイントが認定されます。

Q：学会発表で症例報告をする予定ですが、「E 領域別研修（事例）」の発表者としてポイント取得は可能でしょうか。

A：学会発表での症例報告は要件と合わないため対象外となります。ポイントとして認定されるものは、「高理協主催症例検討会」もしくは「高理協承認症例検討会」となります。

各種実施マニュアルが10月に更新されました！最新のマニュアルは下のQRからご覧いただけます。また、申請や運営に際し、ご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。



高理協承認症例検討会



会員所属施設主催の研修会

高知県理学療法士協会 教育部 高芝 潤
e-Mail : kyouiku@kopta.net

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2022 高知

いずみの病院 濱尾英史

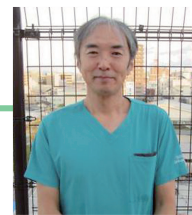
昨年に続き、今年も「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2022 高知」が無事に開催され、私も取材を兼ねて参加させていただきました。コロナ禍で開催が中止となり、昨年が2年ぶりの開催となりましたが、制限も多く半日に短縮された中での開催でした。今年は本来の形である24時間の開催となり、コンサートやセレモニーも復活したことで久しぶりに賑やかさが戻ってきた様子でした。私が初めてこのイベントに参加させていただいたのは2015年のことですが、当時の高知県理学療法士協会のブースではBBQを楽しみながら、初めて顔合わせをする協会会員同士が交流を深め、朝から晩までタスキをつなぐ賑やかなイベントであった記憶があります。時には突然の雨でずぶ濡れになりながらも協会会員同士で会話を楽しみながら会場を歩いた年もありました。

私事ですが、最近緩和ケア病棟のリハビリに配属される機会があり、がん患者さんの残された貴重な時間に関わらせていただくことが増えました。入院してからそのまま最期を迎える方もいらっしゃる、2～3日でも自宅で過ごす時間を作るため、退院調整（家屋訪問や介護サービス調整）を行い、最後の自宅生活を過ごされて病院へ戻ってくる方もいらっしゃいます。がんを告知され、自らのおかれた状況を受け入れ、残された少ない時間を私達の理学療法の時間に費やしてくださっていることを考えると、本当に自分の提供している理学療法はこの方にとって有意義な時間になっているのかと自問することもありました。リレー・フォー・ライフ・ジャパンは「祝う」「しのぶ」「立ち向かう」という3つのテーマを掲げています。我々理学療法士も、がんの告知を乗り越え、今を生きているサバイバー（患者）やケアギバー（支援者）を讃え、痛みや悲しみと向き合っている人たちを敬い、立ち向かう力の一助になればと改めて感じる機会となりました。

コロナ禍で形は変わりつつではありますが、終わることなくイベントが存続しているのも、企画・運営に携わる方々、スポンサーの企業の方々などたくさんの支えがあつてのことだと感じました。当協会でもリレー・フォー・ライフ・ジャパンのイベントをもっと多くの会員に知っていただき、来年は更に盛り上がりを取り戻したイベントになることを祈っております。



施設紹介 医療法人 瑞洋会 田中整形外科病院



医療法人 瑞洋会 田中整形外科病院 リハビリテーション科 科長 西村 敦司

【病院紹介】

当院は昭和40年7月1日高知市上町に開院。四国でも珍しい整形外科単科病院です。開院以来現在まで58年間、整形外科一筋で走ってきました。対象は骨折等の急性疾患・関節変性疾患・スポーツ傷害など多岐にわたります。特徴としては外来患者が多く、1日400人を超えていた時代もありました。今では周辺地域に整形外科クリニックがいくつか開院しましたので当時程ではありませんが、外来患者様の対応に追われています。

令和3年11月から新病院がスタートしました。旧病院の東側駐車場(上町の交差点から北の道路に面して)に建ちましたので新病院を目にする機会もあろうかと思えます。私としては「餅投げ」を大々的に行いたかったのですが、そういう状況でもなく、コロナの終息をただ願っている日々です。新病院での仕事は何もかも新鮮で、屋上からの眺望も素晴らしく良い気分転換になりそうです。明るく整理されたりハ室では期間限定ながら高知城も望むことができ、新たな「田中整形」の歴史を模索中です。

【リハビリテーション科の歴史】

当院理学療法室は昭和48年、森田恵子先生(現：南国中央病院所属)が入職され開始になったと記録が残っています(田中整形外科病院25年史より)。当時の県内理学療法士数13名。養成校の状況もあり理学療法士のみで続けられていました。平成15年、作業療法科・回復期リハ病棟を開設し現在の形になりました。整形外科単科での回復期リハは重症者割合など難しい現状を突きつけられ、生き残りをかけ日々邁進中です。リハ科の歴史の中でも現在高知市朝倉で開院されている森本先生が在職中はスポーツ傷害患者(特に中学・高校)も多く、夕方になるとリハ室の前は学生服で黒く染まっていた。時効と判断しもう少し踏み込むと、一般の患者様に交じってプロ(サッカー)選手も治療していました。TVで見る選手が目の前で黙々と理学療法を行っている姿を見るだけで貴重な経験でした。

【リハビリテーション科・スタッフ紹介】

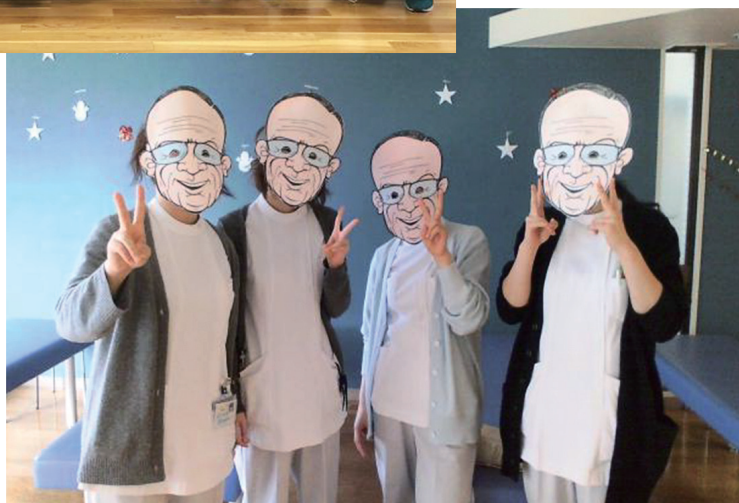
現在理学療法士22名・作業療法士4名・マッサージ師1名の体制で一般病棟・回復期病棟・地域包括病床・外来・訪問リハに対応しています。治療内容は疾患別「運動器リハ」を中心に、あらゆる整形外科疾患・様々な年齢層に対応した理学療法・作業療法を実施しています。当院では学生時代に実際治療を受けた経験があるスタッフも多いです。また、現在でも何かしらスポーツを続けていたり興味を持ち続けているスタッフが多く在籍しております。少し紹介するとマラソンサブ4(4時間を切るタイム)女子・甲子園経験者・バスケットボール国体選手・サッカー・フットサル・サーフィン…実際調べてみると皆いろいろやっています。それらの経験を活かしつつ、日々の臨床に取り組む傍らで、各競技団体にトレーナー活動をしているスタッフもいます。選手のコンディショニング管理はもちろんのこと、応急処置・テーピングなど幅広く知識や経験が求められる中、選手・チームスタッフに信頼されている頼もしいスタッフ達です。期間限定ではありますが、高知県内国体選手に対してのメディカルチェックも行っています。普段、トレーナー活動を行っているスタッフを中心に正確で素早い評価が行われています。トレーナー資格でいうと、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・障害者スポーツトレーナーの有資格者もあり、今後当院の活動の幅が広がればと期待している次第です。スポーツの事ばかり書きましたが、患者様は一般整形外科の患者様がほとんどです。スタッフに求められるのは正しく評価した結果からプログラムを作成する。当たり前の事ですが基礎医学に沿った治療を心がけています。現在「運動器」の認定理学療法士が4名います。協会の新人研修プログラムが改訂されたことを契機と捉え、自分達に何が出来なのか?何がしたいのか?現状把握・目的を見直し、今後は臨床に加え・資格に繋がる職場環境を目指していきたいと考えています。

【新時代へ】

新型コロナウイルスの拡大から約3年経過しました。令和2年に入職したスタッフも、もう3年目…何も歓迎できず時間だけ経過しています。食事も別々なのでマスク下の素顔はほとんど見た事ありません。あんなに行っていた歓迎会・送別会、新人発表後の慰労会など、何かを理由によく集まりよく飲んでいました。いつまで我慢（という表現は私だけでしょうか）いやいや自粛すれば良いのでしょうか…恨み節はもう止めます。社会は再び「Go To○○」と楽しそうになってきています。「隣の芝は青く見える物」の様ですが、生活スタイルや考え方が変化している以上、順応していく必要がありますね。当院職員だけでなく県内理学療法士、すべての医療従事者の方々のご健勝をお祈り致します。



新病院での初集合写真



いつかの忘年会余興練習

コルセット・装具・義足・義手・杖

宮本義肢製作所

(社) 日本義肢協会 登録番号 中四国 143

代表者 門 脇 伸 仁

高知市土居町11-15 TEL & FAX (088) 8 3 3-6 8 6 4

令和4年度 学会・研修会予定表(令和5年1月～令和5年3月)

日程	事業内容	主催
令和5年1月11日(水)	令和4年度 第2回中央西区域ブロック研修会	会員区活動部
令和5年1月12日(木)	令和4年度 第2回高幡区域ブロック研修会	会員区活動部
令和5年1月21日(土)	令和4年度 第3回定期研修会	学術部
令和5年2月 開催予定	会員新年交流会	厚生部
令和5年2月26日(日)	第36回高知県理学療法学会	学術部
令和5年3月18日(土) ～3月19日(日)	第18回高知県臨床実習指導者講習会	高知県臨床実習指導者講習会運営協議会



先生、どうか皆の前でほめないで下さい

いい子症候群の若者たち 〈金間大介著, 東洋経済新報社, 2022〉

今頃は、授業で教室に行くと電灯もつけず暗幕は引いたままで、真っ暗な中に学生全員が坐っているのが常である。そこで小生は「明るい学生生活を送りましょう!」と声を張り上げるのだが、学生は「何を喚いているのかこの爺さんは?」という顔である。それなら天井を指さし「電気」と言うと、前列の学生たちは互いに顔を見合わせ「貴方が行ったら?」というシグナルを送り合うのだ。もっとも、この時も半数ほどの学生は小生が何を言っているのか理解できていない様子である。教壇に近い窓の暗幕だけを小生が空けても、他の暗幕を窓近くの学生は開ける気配もない。室内が暗くても明るくても知ったことではないのではあるが、パワーポイントを使つての授業をする諸先輩は、学生の顔をも見ずにいきなり授業を始めるのだろうか? 出欠の点呼の時くらいは、部屋を明るくしそうなものなのだが! 暗くても平気なのは、学生だけでなく教員の諸先輩講師も、らしい。ともかくも、いまの学生は自分からすすんで行動しようとせず、誰かがしてくれるのを待つのが習慣化してしまっている。でも本著によると“前を切って”スイッチを入れに行くのは恥ずかしいことでもあるのだ。

本著は、会長も「巻頭言」のネタ本として紹介されているが、いまの学生気質を分析した旬の本である。実際に大学で学生を教授しながらの分析で、よく特性を捉えてあって、理学療法士養成校の学生にも共通である。臨床でスーパーバイザーをされて学生実習や新人教育で悩まれることも多いと思われるが、この内容は参考にしていただけるであろうし、小生がお勧めできるピカイチの書である。

ながく教員をしていて卒業生によく聞かれるのは、「最近の学生は変わりましたか?」である。変わったと言えば「変わった」し、変わってないと言えば「変わってない」と言えるが、“意志”“意欲”を持たない学生がクラスのかなりの割合を占めるようになってきていることは確かである。昔は「掃除」と掛け声をかければ、掃除道具を率先して取りに行く学生が多くいた。そのうち、「箒(ほうき)」と言ったらクラス全員が一斉に箒だけを取りに走る時代があった。いまは、掃除は掃除業者の人がするものと思っているところもあるのか、促しても誰も腰を上げることすらしないのだ。

ものはいっただけで書くと、「立方体が描けない子」の学力を伸ばす〈宮口幸治著, PHP新書, 2022〉に載っているほどは明確でないにしろ、最近は自身のボディーイメージが未熟で幼児が描くごとく上肢下肢が異常に短い人体マンガ絵を描いてしまう学生が非常に多い。これでは運動療法指導は無理。また、立体の展開図を描けず3次元の立体を平面図にできないし、逆に平面図から立体(3D)をイメージできない学生も増えている印象をもっている。こうなると、専門知識云々の前に『コグトレ(認知機能のトレーニング)』が必要かもしれない。

いまの若者気質を「嘆かわしい」ととるか「こんなもの」ととるかは夫々であり、養成校の教員の身分では“愚痴”で済むが、臨床実習指導や新人教育を担当される諸師にはご苦勞をお察しする次第である。ただ、新人が一步踏み出さない本質は“面倒くさい”だけではないことをご承知あれ!! (山本双一)

設立50周年記念事業において知事表彰を受賞されました

宮本謙三会長、日野工理事、山崎裕司理事の三名が、県民の保健衛生向上への功績を高知県知事より表彰されました。



左から、山崎理事、宮本会長、日野理事

高知県知事表彰を受けて

高知リハビリテーション専門職大学 山崎 裕司

平成13年3月末に聖マリアンナ医科大学を退職し、15年ぶりに高知リハビリテーション学院に戻って来た。当時、高知県理学療法士会の会長は学院長の中屋久長先生であった。早速、5月から学術部長を依頼された。部員の中に知り合いはほとんどいなかった。学術部の仕事は、高知県理学療法学会（以下、高知県学会）開催のお手伝い、研修会の開催、雑誌「高知県理学療法」の発行であった。ちょうどこの年から、高知県学会の開催をブロック単位で持ち回りすることが決定していた。最初の学会長は、県立安芸病院の元吉先生で、会場は安芸市であった。学会運営に慣れている人がおらず、係を引き受けていただくのに難儀したことを覚えている。ちょうど教育管理の研修会でこのような場合の対処方法を講義していたのでそれに則って介入した。行ったことはマニュアル作りである。徐々に整備されていったものであるが、マニュアルがあると気やすく係を引き受けていただけるようになった。学術部の部員の皆様には、苦勞を掛けたかもしれない。ブロック単位での開催となってからは、推薦した学会長から断られることがほとんどなく、高知県学会をたまに開催するのは当たり前のような雰囲気になった。学術部の部員の中には、このころから長年勤めていただいている先生が複数残っており、頼もしい限りである。学術部員がやめないのは私の一番の誇りである。部長2年目には四国理学療法士学会（以下、四国学会）（松木学会長）の事務も担当させていただいた。演題の収集と査読者の選定、座長の決定などで結構働かされたように覚えている。さらに、4年後の四国学会の学会長も務めさせていただいた。3年目からは学術部担当の理事となり、四国学会の評議委員を任された。どちらも現在継続中であり、我ながら大したものである。

最近では、研修会の開催、高知県学会の開催、高知県理学療法の編集に苦勞しなくなった。2018年に小笠原学会長のもと開催された四国学会では、120演題を集め、その約半数は高知県からの発表であった。高知県は四国の中では抜きんでた存在である。県協会の会員に高知県理学療法への論文執筆を依頼しても快く引き受けていただけるので助かっている。これは高知県の理学療法士の中に学術活動が浸透してきた証であろう。

私は、学術ごっこは好まない。学術活動は目的ではなく手段である。業績を積むことが目的ではなく、対象者とその家族を幸せにすることが目的である。これからは効果的な治療方法を創出できる達人セラピストを育成していかなければならない。そのセラピストの治療を受けたい多数の対象者から支持されるセラピストである。

この高知県知事表彰を励みとして、理学療法を通じて高知県に寄与していきたい。これまでお世話になった皆様には、本当に感謝いたします。

四国理学療法士会創立50周年記念式典にて表彰されました

【功労分野表彰者】

中屋 久長 名誉会員 山本 双一 会員 宮本 謙三 会員

【学術分野表彰者】

竹林 秀晃 会員 沖田 学 会員

この度のご受賞心よりお祝い申し上げます。

各種手続きや研修会の参加受付がもっと便利に！



日本理学療法士協会メンバーアプリ

Japanese Physical Therapy Association

マイページへの
オートログイン

QR読取機能による
研修会参加受付

協会からのお知らせを
プッシュ通知で受信

5月16日に「日本理学療法士協会メンバーアプリ（JPTAアプリ）」を公開しました。

JPTAアプリでは、マイページに自動的にログインし各種手続きができるようになる他、専用のQR読取り機能を使って、研修会の参加受付ができます。また、日本理学療法士協会や高知県理学療法士協会からの大切なお知らせがプッシュ通知で届くようになります。

ぜひ、App Store、Google Playよりインストールしてください。

ダウンロードはこちらから



App Store
からダウンロード



Google Play
で手に入れよう

賛助会員の皆様

令和4年度賛助会員名簿

施設名	住 所	診療科・他
(医)瑞洋会 田中整形外科病院	〒780-0901 高知県高知市上町3-2-6 TEL 088-822-7660 FAX 088-875-8583	整形外科、リハビリテーション科、麻酔科、 ペインクリニック内科、リウマチ科、内科（病棟）
(医)新松田会 高知医療学院	〒781-0270 高知市長浜6012-10 TEL 088-842-0412 FAX 088-841-1783	理学療法学科
(医)白菊会 白菊園病院	〒781-1154 土佐市新居萩の里1 TEL 088-856-1101 FAX 088-856-3364	内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、外科、 整形外科、脳神経外科、消化器外科、小児科、 リハビリテーション科
(医)仁智会 ヘルシーケアなはり	〒781-6402 高知県安芸郡奈半利町乙3740-1 TEL 088-738-5566 FAX 088-738-5564	入所、ショートステイ、通所（デイケア）
(学)土佐リハ学院 土佐リハビリテーションカレッジ	〒781-5103 高知市大津乙2500-2 TEL 088-866-6119 FAX 088-866-6120	理学療法学科・作業療法学科
(社医)仁生会 細木病院	〒780-8535 高知市大膳町37番地 TEL 088-822-7211 FAX 088-825-0909	総合診療科、内科、外科、整形外科、小児科、 耳鼻咽喉科、緩和ケア科、放射線科、泌尿器科、 脳神経センター（脳神経外科）、専門外来、セ カンドオピニオン外来、病理診断科、麻酔科

第36回高知県理学療法学会のご案内

- 日程 : 令和5年2月26日(日)
- 会場 : 須崎市立市民文化会館
- 開催形式 : 対面とWEBのハイブリッド開催(予定)
- 学会テーマ : 「卒後教育について考える」
- 特別講演 : テーマ(仮)「これからの卒後教育について考える
～あたらしい生涯学習制度をふまえて～」
- 講師 : 白石 浩 先生(公益社団法人日本理学療法士協会 常務理事)
- 発表演題 : 一般演題(30題)

※詳細は第36回高知県理学療法学会のサイトをご確認下さい。
www.kopta.net/kochi_cs



編 集 後 記

季節が一気に進み本格的に寒くなってまいりました。

今号の巻頭言や知読万恵では最近の若者の傾向について触れており、従順、調和を大切にするがあまり、闘うべきところで意見を主張できない意思の弱さ、意欲の無さが危惧されています。ただ、学生や新人だけの話ではなく、我々中堅世代の理学療法士にも当てはまる内容もあり、読みながら少しギクリとした自分もいました(笑)。

リレー紹介では、育児休暇中の協会員に執筆していただくというレアなパターンもあり、可愛らしいお子さんの写真にほっこりさせられました。読者を増やしていくためにも、こういった柔らかい記事は大事ですね。最近男性職員でも積極的に育児休暇を取得する傾向もあり、是非ともそういった経験談も聞いてみたいものですね。

はや今年も終わりが近づき、会員の皆様も忙しい日々を送られていることと思います。まだまだ新型コロナウイルスの猛威はとどまることを知りませんが、どうぞお体に気を付けてよいお年をお迎えください。

来年もどうぞよろしくお願いいたします。

(濱尾 英史)

高知県理学療法士協会ニュース No.176 令和4年12月20日発行

発行所 公益社団法人 高知県理学療法士協会

〒780-0054 高知県高知市相生町1-25 レジデンスノナミ107号室

TEL & FAX (088) 879-8023

<http://www.kopta.net> e-mail:jimukyoku@kopta.net

発行者 宮本 謙三

広報部編集委員会

